

1. 第30回臨時総会と小旅行を開催しました。

中部土質試験協同組合では、第30回の臨時総会と、研修を含む小豆島への小旅行を、平成24年10月23日(火)～24日(水)にて開催しました。以下に、臨時総会の内容と小旅行の記録をご報告します。

(1) 臨時総会報告

- ・開催年月日：平成24年10月23日(火)～24日(水)
- ・集合：名古屋駅西側 太閤通口 7:25 出発 7:35
- ・臨時総会開催場所(兼 宿泊先) 小豆島国際ホテル会議場
(〒761-4106 香川県小豆島土庄町銀波浦)
- ・臨時総会：平成24年10月23日(火) 17:15～18:45
- ・議題： 第1号報告 平成24年度中間事業報告
第2号報告 平成24年度中間事業収支報告
第1号議案 会議室増設計画について
第2号議案 利用分量に伴う値引きについて
第3号議案 組合資金運用について
第4号議案 その他



開催場所：小豆島国際ホテル (手前はエンジェルロード)

・議事結果

- ①第1号報告、第2号報告 については、例年になく土質試験事業が順調に推移している報告を完了した。
- ②第1号議案に関しては、現在事務所裏側の駐車場に、現事務所を含む全体面積が、1000m²未満に収まるべく、最大限の会議室を増設すること、および、その詳細を理事会に一任することが、満場一致で承認された。
- ③第2号議案に関しては、この経緯を詳細に説明し、現在実施している利用分量に伴う値引きの取扱を、理事会に一任することが、満場一致で承認された。
- ④第3号議案に関しては、現在の安定運用の上限を撤廃することが満場一致で承認された。なお、リスク運用に関しては、従来通りの扱いを継続することとした。
- ⑤第4号議案に関しては、理事からも議場からも何もないことを確認した。以上を持って、臨時総会を終了した。



第30回臨時総会開催中の様子

(2) 小豆島への小旅行

参加者は、総勢16名で、静岡、松阪方面からも名古屋駅に集合して、呉越同舟の観光バスにて移動でした。

10/23 (火)	<p>■集合場所：名古屋駅太閤口 ■集合時間：07:20 ■出発時間：07:35 (静岡からの新幹線考慮)</p> <p>*1日目のポイントは、[姫路の酒蔵探訪, 世界一狭い海峡]</p> <p>名古屋駅(7:30 発)→新名神～姫路酒蔵(見学～昼食)(11:45 着 12:45 発) ～姫路港(13:00 着 13:30 発)～小豆島・福田港(15:15 着・発)～オリーブ園(16:00 着 16:40 発) ～土淵海峡(世界一狭い海峡, 現地にて立会)～ホテル 17:00 着</p>
10/24 (水)	<p>*2日目のポイントは、[二十四の瞳, 寒霞溪の見学]</p> <p>ホテル(08:30 発)～二十四の瞳記念館(9:20 着 10:00 発)～佃煮工場～寒霞溪(11:15 着) ～山頂(11:30)～昼食(12:00 終了)～散策～福田港(13:15 発)～姫路港(15:00 着) ～名古屋駅(19:30 着) (四日市JCT周辺の混雑で、名古屋駅到着は予定より少し遅れました。)</p>

(3) 見学他状況



a. ギネス認定「世界一狭い海峡」の土淵海峡にて参加者集合



b. ホテルの部屋からは、高松の屋島が遠望できました。



c. 二十四の瞳記念館前での参加者集合(セピア色)



d. 寒霞溪の急峻な地形(紅葉には少し早かったようです)

(豆知識：小豆島と寒霞溪の地形・地質 引用元：<http://www.pref.kagawa.jp/kankyo/shizen/.htm>)

- ①小豆島は、東西 29km, 南北 15km の大きさで、面積は 15,300ha, 最高標高点は星ヶ城山の 817m である。
- ②寒霞溪は、元々、神懸山が小豆島の中央部嶮岨山(けんそざん)山系南側斜面に広がる集塊岩地域であり、再三の火山活動で噴出した安山岩や集塊岩などが差別侵食により奇岩として残り、雄大な溪谷美を形成している。
- ③寒霞溪ロープウェイの山頂駅は、612m の表示がありました。また、寒霞溪の誕生は、1300 万年前の火山活動といわれています。



e. 寒霞溪山頂付近からの遠望



f. 2 次会場で琴欧洲関とご一緒(写真:伏屋さん提供)



ホテル宿泊の佐渡ヶ嶽部屋ご一行関取衆



土淵海峡のギネス看板



到着時のエンジェルロードは冠水状況

2. 特集 -前理事長 加藤 辰昭 氏を偲ぶ会を開催しました-

当組合の第15代理事長の加藤辰昭氏におかれましては、この平成24年6月24日に、急逝されました。心より哀悼の意を表したいと存じます。あまりにも急なことでしたので、関係ご各位の多くの皆様方から、加藤前理事長を偲ぶ会を開催したいという声があがりました。

そこで、中部地質調査業協会・中部土質試験協同組合の共催で、ゆかりのある方々にお集まりいただき、思い出やエピソードを語り合いながら、故人が歩まれた足跡を振り返る会を開催することとなりました。この会の開催にあたりましては、加藤家・富士開発様のご意向を伺いながら準備を進めて参りました。お陰様で、当日は、遠くは仙台・東京からのご参加で、総勢74名の参加者で開催し、加藤辰昭氏の生前のご活躍を偲ぶことができました。

(開催仕様)

- ・日時：平成24年9月1日(土) 受付：10:30 開会：11:00
- ・場所：ホテル 名古屋ガーデンパレス 3階 栄の間
- ・〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目11-13

(式次第)

- ・司会：中部地質調査業協会副理事長 成瀬 文宏
- ・11:00 入場開始～献花お渡し（各自で献花台へ移動）
- ・11:15 開会の辞
中部地質調査業協会理事長 大久保 卓
- ・11:20 思い出のスライド
中部土質試験協同組合理事長 坪田 邦治
- ・11:50 加藤さんを偲んで
中部地質調査業協会顧問,中部土質試験協同組合理事 伊藤 武夫
- ・12:00 献杯
名古屋大学名誉教授, 中部土質試験協同組合技術顧問 植下 協様
- ・12:45 思い出の言葉
(1) 一般社団法人全国地質調査業協会連合会元会長, 相談役 森 研二様
(2) 一般社団法人全国地質調査業協会連合会前会長, 相談役 瀬古 一郎様
(3) 公益社団法人地盤工学会中部支部長(名古屋工業大学教授) 張 鋒 様
(4) 中部地質調査業協会元理事長 下川 裕之様
(5) 中部地質調査業協会元理事, 愛知県地質調査業協会元幹事 都留陽次郎様
- ・13:45 電報のご披露
- ・13:50 お礼の言葉
加藤家代表 加藤敏子様, 富士開発様社長阿部暢夫様
- ・13:55 閉会の辞
中部地質調査業協会副理事長 小川 博之
- ・14:00 閉会～参加者退室



故加藤辰昭氏のご遺影

(開催状況)

開催時間を3時間と設定していましたが、加藤前理事長のお人柄でしょうか、あっという間に過ぎた偲ぶ会でした。大久保協会理事長の心のこもった開会挨拶の後、加藤前理事長(協会・組合)の近年の活動記録をPPTで坪田組合理事長が紹介しました。おそらく、ご家族もあまりご存じのない写真が多かったのではないかと推測しています。次いで、伊藤理事(協会顧問・組合理事)からは、“加藤旅行社”に加えて、中部地質調査業協会・中部土質試験協同組合の事務局の選任を私心なく円滑に行ってきた“人事の加藤”も披露していただきました。

この後、植下先生のご発声で献杯の音頭を取っていただき、歓談に入りました。歓談中には、多くの関係者から趣のあるお言葉を頂きました。これらにつきましては、写真でご紹介します。

(当日の写真)



当日の会場全景



大久保中部地質調査業協会理事長による開会の辞



加藤辰昭氏を偲ぶ会 PPT (坪田理事長)



“人事の加藤”を披露する伊藤 理事・顧問



植下先生による献杯のご挨拶 (日頃の豊富な話題をご披露)



森 元全地連会長による思い出の言葉 (全地連理事会等をご披露)



瀬古 前全地連会長によるご遺影に向かったの思い出の言葉



張 地盤工学会中部支部長は、今年の新春技術懇談会での思い出を紹介



協会・組合関係者による故加藤理事長の人柄を数々のエピソードを紹介 (左から、下川氏、都留氏、榊氏、洪木氏、伊藤氏)

(参加者の席毎の写真)



A席の加藤家・富士開発㈱の皆様



B席の顧問・全地連・地盤工学会中部支部の皆様



C席の協会・組合関係OBの皆様



D席の皆様



E席の皆様



F席の皆様

(多くの方々から、故加藤辰昭氏のお人柄を偲ばれる追悼のお話が紹介されました。故加藤氏は、ほとんどお酒は口にすることはありませんでしたが、「錦」ではたまに口にされることがあったそうです。そんな時でも、ほとんど酔わない方で、本来は酒豪と思われるお話もお聞きすることができました。早いご逝去が今でも残念でなりません。)



G席の皆様



H席の皆様



I席の皆様



協会・組合・事務局の皆様



加藤氏ご令室によるご挨拶



富士開発(株)阿部社長ご挨拶



小川副理事長による閉会挨拶

(偲ぶ会編集後記) 組合関係者も協会関係者も偲ぶ会の開催は、初めての体験でした。今から思えば、暗中模索の中で、インターネット情報を検索し、名古屋ガーデンパレスの牧村さんを巻き込みながら、幾度となく打合せを行いました。お陰様で、滞りなく偲ぶ会の開催を行えることができたと考えています。遠方よりご臨席を賜りました皆様方に深くお礼を申し上げます。今後とも当組合・協会へのご指導・ご鞭撻の程、宜しく申し上げます。

3. 全地連技術フォーラム新潟参加報告

事務局：坪田邦治

本報告は、本年9月に新潟で開催された、全地連「技術フォーラム2012」に参加した技術総括です。組合職員を代表して参加したことにより、諸般の都合により参加できなかった組合職員および組合員技術者の方々のために、全地連フォーラムでは、どのような内容が発表され、また、討議されているのかを参加したセッション毎に整理しました。本フォーラムのジオ・ラボ中部バージョンとして報告させていただきます。当組合からは、1編の発表参加でした。継続して、今後も技術の修得・プレゼン技術向上・人的交流などを目途として、順次発表を行う予定です。



表-1 全地連技術フォーラムメインテーマと参加者数

開催回数	開催年	開催地	メインテーマ	参加者数
1	90	東京		295
2	91	大阪	「現場に戻ろう」Back to the field	394
3	92	福岡	〃	396
4	93	横浜	〃	480
5	94	札幌	「現場の声を聞こう」	489
6	95	広島	〃	467
7	96	仙台	〃	566
8	97	名古屋	〃	647
9	98	東京	「現場に戻ろう」Back to the field	423
10	99	松山	〃	398
11	00	神戸	「開かれたフォーラムを目指して」	345
12	01	新潟		352
13	02	米子		348
14	03	さいたま	地盤防災と環境の創造	366
15	04	福岡	「現場に戻ろう」Back to the field	344
16	05	仙台	災害に備える!! 地質調査業の役割	371
17	06	名古屋	減災への取り組みー地質調査の意義ー	300
18	07	札幌	環境との共生	631
19	08	高知	地域再生	650
20	09	松江	地域再生への取組	620
21	10	那覇	”現場”へ戻ろうー地質調査の役割ー	398
22	11	京都	”現場”へ戻ろうー地質調査の役割と今後の展開ー	480
23	12	新潟	”現場”へ戻ろうージオ・アドバイザーとしての役割ー	500

1. 技術フォーラム概要 (表-1, 図-1)

・H24年9月20日(木)～9月21日(金)

・場所：新潟市 朱鷺メッセ

・テーマ：“現場へ戻ろう”

ージオ・アドバイザーとしての役割ー

今年度の参加者の総数は、全地連事務局調べでは、昨年度を上回った500名とされている。困難な時代にも関わらず、多くの協会員・賛助会員技術者が参加し、技術交流を継続していることに深く敬意を表したい。

2. 特別講演

今年は、**金田義行氏**（(独)海洋研究開発機構 地震津波・防災研究プロジェクトリーダー）による、「東北地方太平洋沖地震の実像と今後に向けての提言」でした。

内容は、以下の5点でした(P-1)。

- ①東日本大震災の実態
- ②見えてきた課題
- ③南海への備え
- ④ひずみ集中帯
- ⑤今後の課題

ことに、(独)海洋研究開発機構(JAMSTEC)による深海調査研究船“かいわれい”を用いたプレート境界での大がかりな以下の様な調査は、大地震の実態解明に貢献していると考えます。

（かいわれいのミッション）

- 7000m級無人探査機「かいこう7000II」の運用
- 4000m級深海調査曳航システム「ディープ・トウ」の潜航支援
- 海底地形調査
- 地層探査
- 地球物理探査
- 海底堆積物の採取
- 海底下深部の構造探査
- 海底地震計、係留系等の設置・回収作業

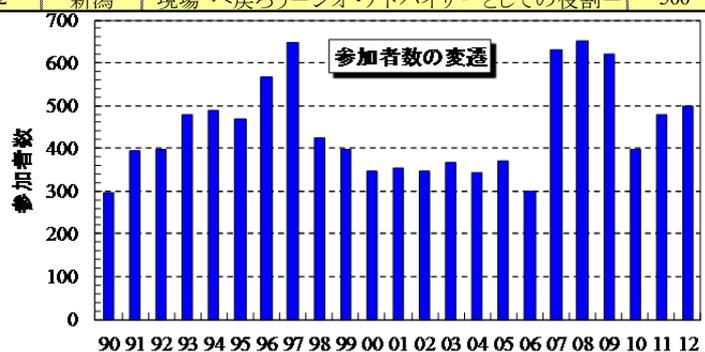


図-1 フォーラム参加者数の変遷



P-1 金田氏による特別講演状況

当日のPPTよりもJAMSTECのHPから引用したかいいいの調査ミッションを図-2に紹介する。

この中で、特別講演では、海底で起こった現象(地殻変動)について詳細に解説していただいた。当日のPPTは、多くがJAMSTECのHPに公開されているので、この図を引用して紹介する(参照:図-3~4、詳細はHP)。(講演のポイント)

表-2 全地連 技術フォーラム タイムテーブル □ 出席したセッション

会場	時間	A(302A)	B(302B)	C(301)	D(303+304)
特別	13:00~15:00	開会式~特別講演会(金田義行氏)			
1	15:15~16:15	A-1(4編)	B-1(4編)	C-1(3編)	D-1(3編)
		東日本大震災 I	メンテナンス	情報伝達	汚染土壌地下水調査
2	16:30~17:30	A-2(5編)	B-2(4編)		D-2(4編)
		東日本大震災 II	道路盛土		グラウンドアンカー
3	16:15~17:45	C-2 地質リスクマネジメント元年-地質調査業の新しい役割- コーディネーター: 渡邊法美氏(高知工科大学教授)			
4	9:00~10:30	A-3(6編)	B-3(4編)	C-3(7編)	D-3(6編)
		現地調査 I	岩盤評価	斜面災害 I	地下水調査孔
5	10:45~12:15	A-4(7編)	B-4(5編)	C-4(8編)	D-4(6編)
		現地調査 II	室内試験 I	斜面災害 II	地下水対策/解析
6	13:30~15:00	A-5(6編)	B-5(6編)	C-5(7編)	D-5(7編)
		現地調査 III	室内試験 II	斜面災害等 III	物理探査

- * 調査手法: 深海調査研究船「かいいい」の高分解性能 反射法地震探査システム
 - * 調査位置: 日本海溝を含む東北地方太平洋沖地震の本震の震央付近
 - * 調査時期: 地震前の1999年と発生後の2011年
 - * 調査結果: 地震の発生源となった断層(地震断層)と地震履歴を残した変形構造が明らかにされ、東北地方太平洋沖地震では、地震断層の破壊が、いくつもの副次的な断層を作りながら、海側へ進み、海底に到達して止まったことが解明されました。これは、海溝型巨大地震の地震断層とその変形構造を突止めた世界で初めての結果です。
 - * 今後: 変動の履歴を明らかにし、大規模な津波を発生させた地震の空間的な広がりや繰り返し周期を明らかにしていく予定とのことで、大きな期待が寄せられている。
- (引用元 http://www.jamstec.go.jp/j/about/press_release/20120820/)

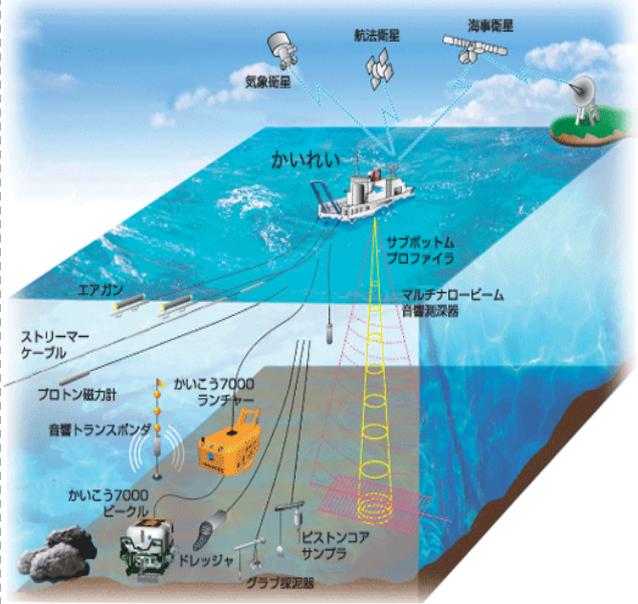


図-2 かいいいの調査ミッション (引用: JAMSTEC HP)

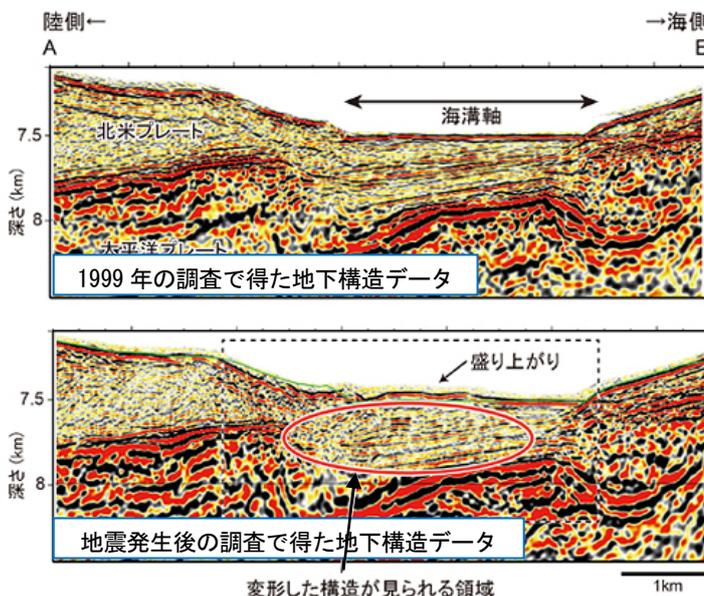


図-3 東北地方太平洋沖地震発生前後の地下構造データの比較 (引用: JAMSTEC HP)

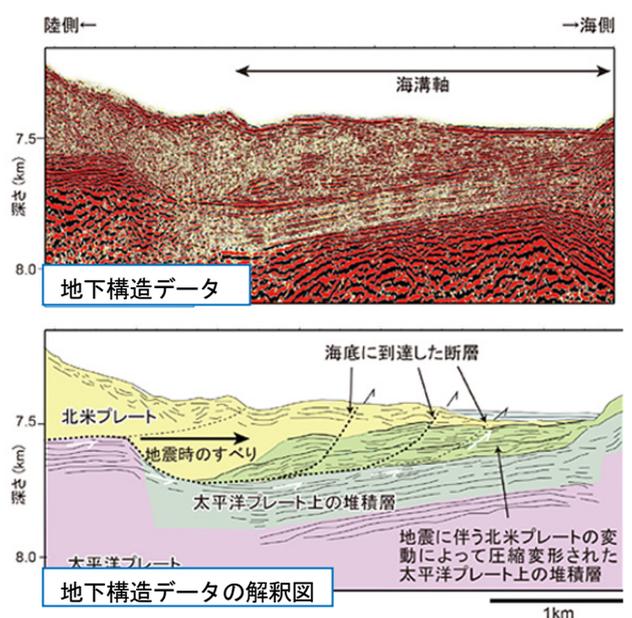


図-4 図-3の点線部における高解像度の地下構造データ (引用: JAMSTEC HP)

3. 一般セッション

① ジオ・ラボネットワーク会員からの発表について

- ・今年度のジオ・ラボネットワーク会員からの発表参加は、以下の3編でした。
- ・毎年、ジオ・ラボネットワークから、5編程度の発表が可能なように、研鑽していきたい。
- ・発表セッション : B-4: 室内試験 I (No.42) : B-5: 室内試験 II (No.51)
: D-4: 地下水対策/解析 (No.95)

No.	氏名	所属	題名
42	山内一則	北海道土質試験協同組合	粗粒材料の凍上試験について
51	久保裕一	中部土質試験協同組合	濃尾地域の液状化特性における細粒分含有率の影響に関する考察
95	松川尚史	協同組合関西地盤環境研究センター	フィルダムの劣化現象の物理・化学的調査



(新潟駅前にも案内がありました)



(発表・意見発表参加のHK, CB, KSメンバー)

② 一般セッションについて

主として、室内試験に関連した項目で、東海地域で今後活用できると考えられる発表を記載しておきます。

No. 41 平岡氏：ポイント：定性X線回折の活用

北海道に分布する泥岩のスレーキング特性を把握するために、定性X線回折を実施し、当該地域の泥岩が膨潤性粘土鉱物であるNa型スメクタイトを多く含むと判定している。一般に、スメクタイトには、Na型とCa型が分布するが、Ca型は細片化し、Na型は膨潤化し泥状化するとされている。このように、泥岩のスレーキング特性をX線回折を活用することが有効であると考えられる。追記すると、Na型とCa型では、液性限界が大きく異なるとされており、液性限界試験を適用することで、効率的に調査が行えると考えている。

No. 45 赤井氏：ポイント：配合試験における超音波速度測定の適用

室内配合試験に用いた数多くの土質で幅広い目標強度に対して実施した検体(24土質計1,119供試体)を対象に、比較的容易に試験を行える「パルス透過法による岩石の超音波速度測定方法(JGS1220-2009)」を実施し、圧縮強度と超音波伝搬速度(P波,S波)との関係を調べた。これらの結果を整理し、立会時に、事前に超音波伝搬速度を実施しておけば、ある程度の強度を推定できることで、安心して立会試験を行えると解説されていた。私共でも、立会が多く実施されることから、こうした試みを適用できると考えている。

No. 46 島村氏：ポイント：中間土の地盤定数評価のための簡易三軸CUBの適用

港湾の施設の技術上の基準・同解説のp-318によれば、原位置での有効応力を再現して乱れの影響を除去することを目的として、「再圧縮CU三軸圧縮試験」の適用が推奨されている。

この場合は実際の地盤はKo圧密となっていますからKo圧密をすることが適切ですが、試験の複雑さやコストを考慮して平均有効圧密圧力による等方圧密により代用する方法が提案されている。この方法は、Ko≒0.5程度と仮定して有効土被り圧の67%を再圧縮の圧密応力として圧密させ、圧密後に0.1%/minのせん断速度で圧縮したときの最大せん断強さ(最大主応力差の1/2)について、強度異方性やせん断速度効果を考慮して、その

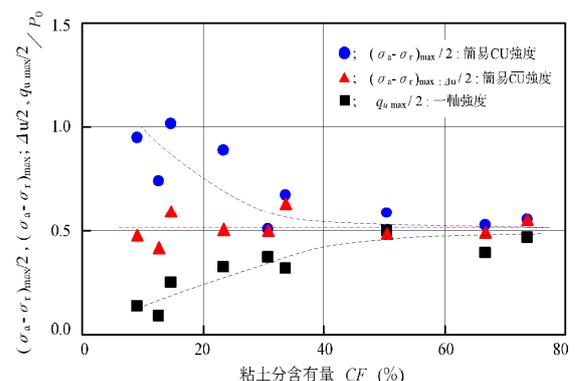


図-5 正規化強度比と粘土含有量の関係(不攪乱)

(No. 46の発表論文から引用)

75%を設計強度として用いるとしている。

この手法の延長で、島村氏達は、再圧縮 CU 三軸試験が粘土分主体の高塑性な粘性土に主眼を置くのに対して、簡易 CUB 試験はその発展型として、高塑性な粘性土～砂・シルト分を多く含む低塑性な粘性土に至る広範な地盤を扱う手法として位置付けている。発表された試験結果の一部を、図-5(論文の図番号)として示す。このような試みは、私共試験技術者として望ましい立ち位置と考えている。畠山・島村氏等に、エールを送りたい。

●最後に

発表する内容に即したタイトルを付けることが望ましいと考えている。以前に、私共も中部地質調査業協会ミニフォーラム(2008年)で、名大・中野先生からコメントでご指摘を受けたことがあります。現在のように、ネットに Up されておれば、キーワードの入力で、論文検索が比較的簡易にできることから、内容とタイトルの一致が望まれる。今回、フロアでコメントさせていただきましたが、こうした傾向が見られる論文がありました。

私共も今後発表する際に、この点について留意していきたいと考えている。

4. ジオ・ラボネットワーク経営懇談会臨時会議報告

例年、ジオ・ラボネットワーク経営懇談会を秋頃開催しているが、今年は東北地質調査業協会の早坂 理事長をお招きし、東北大震災後における地盤調査の状況を把握することで、仙台での会議となった。以下にその概要を報告する。

(1) 会議開催仕様

- 臨時会議：平成 24 年 10 月 26 日(金)
14:00～17:00 (懇親会:17:00～19:00)
- 議題：
 - ①各協同組合の上半期の運営状況
 - ②ジオ・ラボネットワークの運営状況
 - ③全地連からの連絡事項
 - ④震災後の土質試験業務対応
(東北地質調査業協会との意見交換)
 - ⑤その他

(2) 参加者・参加組合

全地連事務局 2 名 + 全組合 17 名 = 19 名
(広島, 宮崎を除く)



東北地質調査業協会 早坂 理事長のご挨拶

(3) 主たる報告事項・議事事項

- ①上半期の受注・完成額について、北陸が 8 月 6 日に広域化の認可を受け、18 組合員になった。
(従来、15 組合員 + 福井：(株)田中地質コンサルタント、富山：三和ボーリング(株)他)
- ②平成 24 年度技術者交流会に関しては、関西組合の施設見学時間が少し短かったという意見があったが、この点以外は、比較的満足された参加者が多かった。また、精算結果も承認された。
- ③ジオ・ラボネットワークのサーバーに関しては、ファイル転送システムが十分に活用されていること、今後、サーバーの故障の際の対応策を検討しておく必要性が認識された。この点に関して、クラウドの活用も一案とされ、全地連情報を含めて検討課題とした。
- ④全地連技術フォーラムでの、ジオ・ラボネットワークの存在感を高めるために、5 編程度の発表が望ましいという意見もあった。
- ⑤東北大震災の支援業務について、6 月以降に実施してきた支援の報告と、今後の意見交換を行った。現状では、仙台にある 1 業者からの受注に限定されているが、今後、東北地質調査業協会会員からの業務を受注できるような活動も必要ではないかとの意見もあり、検討課題とした。
- ⑥パンフ「地盤調査における地盤材料試験・地盤材料試験を有効に活用するために」の印刷が承認された。11 月末を目標に完成することとした。なお、全地連から、20 万円の印刷補助金を入手できることとなった。今後、各組合から必要部数を確認し、印刷単価を決定する。
- ⑦次期、ジオ・ラボネットワークの事務局に関して協議した結果、従来の 4 組合で、統括者・副代表を順次交代で務めることが満場一致で承認された。このことから、H25 年 6 月～H27 年 6 月までは、代表：関西組合理事長、副代表：関東組合理事長が就任することとなった。

- ⑧東北地質調査業協会 早坂理事長他の役員有志との意見交換会の話題について審議した。
- 東北地域における地盤調査業務の発注状況
 - 地盤材料試験の発注状況などについて、震災後からの状況を紹介していただく。
- ⑨全地連からの連絡事項。
- 日本学術会議の地盤情報に関する審議状況。
 - 福島原発のような「除染特別区域等における地質調査と積算事例に関する講習会情報。
 - ジオ・ラボネットワーク通信の発行済資料の紹介。
- ⑩東北地質調査業協会 早坂理事長他からの情報提供
- a.東北地方被災3県の公共事業の推移
 - H14年度：9,000億円 ・H23年度：14,000億円 ・H24年度：14,000億円
 - 一度に発注されても、こなしきれない状況→宮城県等では不調，人件費のUpも発生
 - b.H24年10月26日段階では，復興予算の46%にとどまるものの，発注者は，従来の10倍程度の業務量をこなしているといわれている。
 - c.被災3県の地盤調査業務に関する情報はないが，宮城県：105億，岩手県：74億，福島県：9億円程度と予測している。
 - d.2015年度以降，5年間で533億円が計画されている。年間にすると，133億円程度となる。
 - e.業務が発注されるが，ボーリング機械がないし，人が居ない状況。
(基本的には，支店業者に多くの業務が発注されており，地元業者との間に格差が生じている)
 - f.発注者に余裕がなく，調査・設計の一括発注も多いと聞いている。
(注：上記の数値はヒアリングでのメモであり，聞き違いがあることもお含み置き下さい)

◆◆◆ (事務局からの連絡事項) 第15回技術講習会のお知らせ ◆◆◆



浅岡 顕 先生

今回の講演会は 地盤工学分野での国内最先端のご研究をされている 浅岡 顕 先生をお招きし 『2011年東北地方太平洋沖地震(3.11地震)によって新しく分かった地盤災害と今後の地盤工学の課題』 と題しまして，東北大震災後に判明したことや南海トラフ大地震の来襲が懸念される東海地域における地盤工学的課題などを易しく解説していただける予定です。

見学会では 中部圏随一の設備と技術を誇ります私ども組合試験所の各種機器や装置の紹介 および これらを使っての地盤材料試験の実技を見学する企画を立案しました。

(主催：中部土質試験協同組合 協賛：中部地質調査業協会) (現在、発注者へのご案内中)

- 開催日時:平成24年12月21日(金) 13:00~16:45
- 開催場所:＊講演会:名進研ホール(CPD=2.0 予定)13:00~15:00
〒451-0045 名古屋市西区名駅2-34-19 (名古屋駅から徒歩5分)
＊見学会:中部土質試験協同組合 試験室
- 受付・ご案内 12:30~13:00
13:00~13:10 開会挨拶・講師紹介 中部土質試験協同組合 理事長 坪田 邦治
- 第1部 講演会 13:10~14:50 (160名迄)
＊演題『2011年東北地方太平洋沖地震(3.11地震)によって新しく分かった地盤災害と今後の地盤工学の課題』
＊講師 名古屋大学名誉教授 浅岡 顕 先生
(公益財団法人地震予知総合研究振興会 副主席主任研究員)
14:50~15:00 閉会挨拶 中部地質調査業協会 理事長 大久保 卓
- 第2部 見学会 15:45~16:45 (80名迄) (バス2台でご案内をします)
＊各種地盤材料試験機器・装置の紹介
＊試験見学:物理試験 一軸圧縮試験 三軸圧縮試験 圧密試験 振動三軸(液状化)試験 岩石試験 他
＊なお，試験所見学終了後は，JR 中央線千種駅(到着：17:15 予定)までお送りします。
※会場は，多くの参加者が入場できるよう準備しております。関係ご各位の参加をお待ちしています。

当組合の組織



Geo-Labo Chubu

地盤材料試験は、地質調査業における最も大切な業務のひとつです。

東海地域で活躍する地盤調査企業各社の経験と技術の結晶である、ジオ・ラボ中部には、組合員18社、準組合員15社が参加しています。平成16年に、新試験所が完成し、これまで以上に時代のニーズに応える充実の土質試験設備群、確かな技術陣と経験豊富な植下顧問（名大名誉教授）により、高品質な試験サービスの提供を行っています。

技術顧問	工学博士	植下 協	（名古屋大学名誉教授）
監理技術者	博士(工学)	坪田邦治	（技術士：総合技術監理(建設)、建設部門(土質及び基礎、建設環境)、応用理学部門(地質)）
地盤調査・土質試験等の技術的質問に対して、豊富な経験に基づいた地盤工学の専門家としてお応えいたします。			

組合員名簿 18社 （愛知県内 15社, 三重県内 2社, 静岡県内 1社）

平成24年7月現在

会社名	代表者	郵便番号	住 所	電話番号
株 ア オ イ テ ッ ク	小川 博之	462-0804	名古屋市北区上飯田南町2-45-1	052(917)1821
青 葉 工 業 株	武藤 英教	462-0841	名古屋市北区黒川本通4-32-1	052(915)5331
株 ア ク ア テ ル ス	山本六兵衛	452-0805	名古屋市西区市場木町64	052(503)1538
川 崎 地 質 株	西岡 吉彦	465-0095	名古屋市名東区高社1-266	052(775)6411
基礎地盤コンサルタンツ株	成瀬 文宏	451-0044	名古屋市西区菊井二丁目14-24	052(589)1051
株 キンキ地質センター	片岡 泰	466-0005	名古屋市昭和区雪見町1-14	052(741)3393
サンコーコンサルタント株	竹田 洋一	453-0015	名古屋市中村区椿町21-2	052(452)1651
株ダイヤコンサルタント	米田 茂夫	456-0002	名古屋市熱田区金山町1-6-12	052(681)6711
玉野総合コンサルタント株	田部井伸夫	461-0005	名古屋市東区東桜2丁目17番14号 新栄町ビル	052(979)9111
中 央 開 発 株	西川 一弥	453-0853	名古屋市中村区牛田通2-16	052(481)6261
株 東 建 ジ オ テ ッ ク	富田 義裕	457-0051	名古屋市南区笠寺町字迫間9-2	052(824)1531
東 邦 地 水 株	伊藤 武夫	510-0025	四日市市東新町2-23	059(331)7311
株 日 さ く	水井 寿則	454-0971	名古屋市中川区富田町大字千音寺東尼ヶ塚117-2	052(432)0211
日 特 建 設 株	松本 信夫	450-0002	名古屋市中区栄1-16-6 名古屋三蔵ビル8F	052(202)3211
富 士 開 発 株	阿部 暢夫	464-0806	名古屋市千種区唐山町3-30	052(781)5871
松 阪 鑿 泉 株	由井 恒彦	515-0064	松阪市五反田町1-1221-5	0598(21)4837
明治コンサルタント株	小原 潤一	465-0026	名古屋市名東区藤森2-273	052(772)9931
株中日本コンサルタント	狩野 行宏	421-0113	静岡市駿河区下川原1丁目8番18号	054(257)9781

準組合員名簿15社 （愛知県内11社, 三重県内 1社, 岐阜県内1社, 静岡県内2社）

平成24年7月現在

会社名	代表者	郵便番号	住 所	電話番号
株朝日土質設計コンサルタント	澤田 哲郎	500-8289	岐阜市須賀4-17-16	058(275)1061
応 用 地 質 株	谷川 正志	463-0078	名古屋市守山区瀬古東2丁目907	052(793)8321
協 和 地 研 株	駒田 好孝	515-0002	松阪市郷津町166-8	0598(51)5061
興 亜 開 発 株	橘 久生	468-0015	名古屋市天白区原2-2010	052(802)3121
株 栄 基 礎 調 査	鈴木 幹夫	463-0031	名古屋市守山区本地が丘1702	052(779)0606
株シマダ技術コンサルタント	妹尾 俊美	465-0017	名古屋市名東区つつじが丘609	052(773)9281
株地圏総合コンサルタント	鴨志田 毅	420-0034	静岡市葵区常磐町1-4	054(260)5680
株アサノ大成基礎エンジニアリング	広瀬 義純	460-0026	名古屋市中区伊勢山1-1-1	052(323)3611
株 大 和 地 質	大久保 卓	454-0054	名古屋市中川区八剣町4-28-1	052(354)5700
株中部ウェルボーリング社	佐藤 安英	464-0027	名古屋市千種区新池町4-55	052(781)4131
株東海環境エンジニア	鈴木 太	454-0012	名古屋市中川区尾頭橋3-3-14	052(331)8121
株東京ソイルリサーチ	長縄 直樹	461-0004	名古屋市東区葵3-11-6 セントラル桜通葵ビル	052(979)5671
日 本 物 理 探 鑛 株	中川 直之	453-0856	名古屋市中村区並木2-245	052(414)2260
株 ヨ コ タ テ ッ ク	西部 雅英	451-0042	名古屋市西区那古野1-15-18	052(565)9252
株 フ ジ ヤ マ	藤山 義修	435-0013	浜松市東区天竜川町303-6	053(462)8800

ジオ・ラボ中部は、常に最新の技術や機器をそろえ、さらなる発展を目指して、たゆまぬ努力を続けていきます。